環太平洋研究図書館連合（PRRLA：Pacific Rim Research Libraries Alliance）－ 2018 年総会参加報告－

小林　真理絵

1. はじめに

2018 年 9 月 16 日から 19 日にかけて，環太平洋研究図書館連合（Pacific Rim Research Libraries Alliance：以下 PRRLA）の 2018 年総会が米国･カリフォルニア大学バークレー校で開催された。PRRLA の総会には館長と随行 1 名のみが参加できる。今年度は館長代理として佐藤初美情報管理課長が，随行員として筆者が，17 日・18 日のプログラムに出席した。本稿では出席したプログラムおよびバークレー校の図書館について報告する。

PRRLA の概要については佐々木智穂閲覧係長による報告 [1] を参照されたい。

2. 総会の概要

名称　：Pacific Rim Research Libraries Alliance 2018 Meeting（環太平洋研究図書館連合 2018 年総会）

テーマ　：Access in a Networked World: Challenges, Opportunities, and Solutions for PRRLA Libraries（ネットワーク化された世界でのアクセス：挑戦，機会，解決策）

日程　：2018 年 9 月 16 日（日）～ 19 日（水）

開催場所：カリフォルニア大学バークレー校（University of California, Berkeley）

参加者　：12 の国・地域の 35 機関から 58 名（内訳：中国 9 名, 香港 6 名, マカオ 1 名, 韓国 5 名, 日本 2 名，シンガポール 6 名，インドネシア 2 名，ハワイ 2 名，オーストラリア 3 名，ニュージーランド 1 名，カナダ 2 名，アメリカ 19 名）

今回の総会が開催されたカリフォルニア大学バークレー校は 1868 年に設立された州立大学である。各種世界大学ランキングで常に上位の評価を得ており，多くのノーベル賞受賞者やピューリッツァー賞受賞者などを輩出している。現在，学部学生約 30,600 人，大学院生 11,300 人が在籍している [2]。

写真 1：カリフォルニア大学バークレー校入口

1　佐々木智穂 . 環太平洋研究図書館連合（PRRLA：Pacific Rim Research Libraries Alliance）―2017 年総会参加報告―．東北大学附属図書館調査研究室年報．2018, vol.5, p.153-158, http://hdl.handle.net/10097/00122457.

2　https://www.berkeley.edu/about/bythenumbers,(参照 2019-01-04）.

3. プログラムとセッション

3.1. プログラム

【9 月 16 日（日）】
・歓迎レセプション
【9 月 17 日（月）】
・開会挨拶
・記念撮影
・プレゼンテーション：Building Infrastructure for Digitization, Discovery, and Access（デジタル化, 発見, アクセスのためのインフラ構築）
・パネルディスカッション：Access in a Networked World: Cross-Institution Cooperation and Collaboration（ネットワーク化された世界でのアクセス：施設間の連携・協力）
・図書館見学：Reception and tour of C. V. Starr East Asian Library（東アジア図書館）
・プレゼンテーション：Innovation and International Exchange among PRRLA Libraries（PRRLA 図書館間のイノベーションと国際交流）
・発表の振り返り
・懇親会
【9 月 18 日（火）】
・ホスト校プレゼンテーション
・Pacific Rim Library Reports（PRRLA 活動報告）
・図書館見学：The Bancroft Library Special Collections Tour（Bancroft Library 特殊コレクションツアー）
・PRRLA ビジネスミーティング
・プレゼンテーション：Digital Humanities, E-Learning, and E-Publishing across the Knowledge Lifecycle（知のライフサイクルにわたるデジタル人文科学，E ラーニング，電子出版）
・プレゼンテーション：Digitization and Discovery: Access to Special Collections（デジタル化と発見：特殊コレクションへのアクセス）
・発表の振り返り
・懇親会
【9 月 19 日（水）】
・オプショナルツアー

3.2. 本学からの発表

2 日目最後のセッションにおいて「Archives of dealing with earthquake disasters in Japan: Great East Japan Earthquake（日本における震災アーカイブズの取り組み：東日本大震災）」と題する発表を英語で行った。発表では当館「震災ライブラリー」を主として，東北大学災害科学国際研究所の「みちのく震録伝」，国立国会図書館の「ひなぎく」を紹介した。発表に用いたスライドは PRRLA ウェブサイトにて公開されている [3]。

質疑応答では，想定している利用者，それぞれのアーカイブ間の連携，テキストデータや英語のコンテンツの有無，阪神・淡路大震災時の取り組みとの関係，ファイルの整理方法についてなど，様々な質問が出された。PRRLA 参加館は環太平洋地域であるため震災や津波への関心も高く，災害アーカイブの構築・利用について具体的に興味を抱いてもらえたようである。

写真 2：筆者による発表

3.3. プレゼンテーションの概要

5 つのセッションにおいて口頭発表 13 件（発表 20 分，質疑 10 分）とポスター発表 2 件が行われた。発表の予稿 [4] およびスライド [5] はウェブにて公開されている。ここでは各発表の概要を紹介する。

● Opening the Network to Less-Visible Histories
（南カリフォルニア大学：米国）

南カリフォルニアの目に見えにくい歴史へのアクセスを確保するための都市全体のコミュニティアーカイブ。コレクションをネットワーク化されたスペースに

3　http://167.99.236.210/wp-content/uploads/2018/10/Marie_Kobayashi.pdf,（参照 2019-01-07）.
4　http://pr-rla.org/wp-content/uploads/PRRLA_090618_FINAL.pdf,（参照 2019-01-07）.
5　http://pr-rla.org/2018/09/27/2018-annual-meeting-presentations/,（参照 2019-01-07）.

取り込み，歴史的記録をより発見しやすくする。人間のネットワークをデジタル環境にマッピングする。

● The Canadian Roadmap for Advancing Scholarly Communications（ビクトリア大学：カナダ）

カナダの研究図書館は，オープンで持続可能で効果的かつ革新的な学術コミュニケーションシステムを構想している。データ管理計画の策定を支援し，データリポジトリ用のプラットフォーム「Federated Research Data Repository（FRDR）」に参加している。

● Expanding the Impact of Research Resources（カリフォルニア大学バークレー校：米国）

次章参照

● Climbing up the Unfathomable Mountain of Shared ILS: Experience Sharing from JULAC（香港科技大学，香港城市大学，香港大学：香港）

香港の JULAC コンソーシアムは，Alma と Primo を使用して個々の ILS（統合図書館システム）を共有 ILS に移行した。ディスカバリ，目録，メタデータ等 5 つのサブ WG で検討した。異なるシステムからのマッピングであり難航した。

● When Opportunity Doesn't Knock, Build a Door（カリフォルニア大学マーセッド校：米国）

カリフォルニア大学オープンアクセス（以下 OA）方針策定後に調査したところ，OA 不可が 48％，Gold が 20％，Green が 23% であった。OA 促進のため，ワークショップチュートリアル，OA ウィークでのプレゼンテーション，各部局へ 15 分ほどの短い説明会，個別相談など，対面での説明に重点を置いた教員への支援を行っている。

● KLIB: A New Mobile app for Reserving and Managing Library Seats and Facilities at Korea University（高麗大学校：韓国）

KLIB は，高麗大学図書館が 2000 年代に始めた一連のデジタル化プロジェクトの一部である。ユーザーは KLIB アプリケーションをインストールしたモバイルデバイスから，図書館の情報やサービスに簡単にアクセスしたり，座席や施設を予約することができる。 図書推薦のシステムでは過去 10 年分のデータを分野で判断している。

● Library Exchange Program, a UCSD-Fudan Experience（カリフォルニア大学サンディエゴ校：米国）

復旦大学とカリフォルニア大学サンディエゴ校で国際交流プログラムを設定した。それぞれの大学図書館がインターンシップの学生を受け入れている。プログラムは 4 週間にわたり，評価も行う。

写真 3：プレゼンテーション初日の会場（Moffitt 図書館）

● Library and Digital Humanities: New Vision, New Role, and New Services（北京大学：中国）

デジタル人文学への支援として，図書館技術部が協力して横断的な共同研究を行った。デジタルコンテンツのイニシアチブをとっている。共通のプラットフォームを設けることで発見可能性の向上につながる。また，ワークショップも行っている。

● Beta Testing an OA Monograph Publishing Lab: Brainstorm Books at UCSB Library（カリフォルニア大学サンタバーバラ校：米国）

UCSB Library における OA モノグラフの出版の試みをデータライブラリアン，学生，教員が協働して立ち上げた。出版社にアドバンテージがあり困難な面もあった。出版経験のない学生の教育のため，チュートリアルを提供している。教育の一環として，活版印刷の実習も行っている。

● Enhancing Information Literacy via MOOC and the Library's i-Space（香港理工大学：香港）

学生の情報リテラシー開発を促進するために InfoLit と i-Space を立ち上げた。InfoLit は動画教材である。アニメーションを使用し学習できるようになっている。i-Space は施設設備であり，アニメを作るスタジオや 3D プリンタ等各種ツールが揃っている。スタッフはおか

ず，使用する学生が動画によるトレーニングを受け，活用するようになっている。

● Law Collection @ SMU Libraries: Raising the Bar for Access and Discovery
（シンガポールマネージメント大学:シンガポール）

法学分野を対象に教員の刊行物，教員調査，図書館の利用と ILL の動向，などデータ分析を使用して，図書館のコレクションとサービスが教員の研究ニーズにどのように役立ったか考察した。教員の認知の向上とアウトリーチが重要である。

● Archives of Dealing with Earthquake Disasters in Japan: Great East Japan Great Earthquake
（東北大学：日本）

前項参照

● Marsden Online: Bringing Records of New Zealand's First Settlement to the World
（オタゴ大学：ニュージーランド）

手稿のデジタル化を行った。コレクションを単に閲覧するだけでなく研究ツールとして役立てるプラットフォームを開発しており，発見可能性向上のためにデジタル化した手稿の文字起こしを行い，全文検索に対応している。

写真 4：プレゼンテーション 2 日目の様子（Alumni House）

いずれの発表においても参加者が熱心に聞き，また活発な質疑応答が行われていた。各日とも締めくくりとしてその日の発表を振り返り，印象に残った点などを近くの席の者と共有し，全体に発表する時間が設けられた。

質疑や他館の発表を通じて，画像をウェブで公開するだけではなく，テキストデータを付与し再利用できる形で整備することが求められていることを実感した。IIIF については話題に上がらなかったが，これが当然であるためなのか，テキストデータ付与による全文検索の方が重要であるためなのかは発表からは読み取れなかった。

4. カリフォルニア大学バークレー校の図書館

会場であるカリフォルニア大学バークレー校からはホストプレゼンテーション（同校図書館の紹介）および研究資源の拡大についての発表があった。プログラム中に図書館見学会があったが，各日とも自由見学方式であった。懇親会にはバークレー校の図書館職員も出席しており，図書館について質問することができた。本章では発表や懇親会から得た情報の他，観察より得られた情報を含めて紹介する。

4.1. 図書館全体

サービスポイントとして 25 の図書館があり，合わせて 1,300 万冊を所蔵する。本館的役割を担っているのは，DOE 図書館と Moffitt 図書館の 2 館であり，DOE 図書館は研究図書館，Moffitt 図書館は学生向け施設となっている。運用方針は本学同様，各館で異なる。

開館時間は館により異なるが，多くの図書館は 9 時開館で夜[6] は閉館している。入口に BDS はあるものの入館に際し利用証は求められず，夜間休日に無人入館可能な施設には見受けられなかった。その分，学期期間中は長めに開館しているようである。

バークレー校の図書館では，“Connecting learning”，“Treasures”，“Quick information service” を 3 本柱としている。

“Connecting learning” のもとには 2017 年からデジタルリテラシー教育が実施されている。図書館がデータサイエンスやミュージックリテラシーを教えるサービ

6　閉館時間は早いところで 16 時、遅いところで深夜 2 時と館により大きく異なる。休業期間中は多くの館で 9 時 -17 時、休日は休館。http://www.lib.berkeley.edu/hours,（参照 2019-01-07）

ス，学生が教え合う相談サービスもある。

“Treasures” では，所蔵コレクションにいつでもどこでもアクセスできるようデジタル化が実施されている。特殊コレクションのデジタル化を優先しており，米国に入植した頃の記録（写真，日記等）のスキャンを行っている。年間 300 万点の画像作成を目標としており，画像作成のためにスキャン専門の技術者を雇っている。発見可能性およびアクセシビリティを重視しており，利用促進のために本文のテキスト化を行い，機械翻訳可能な状態で提供されている。また，利用者自身によるスキャンサービスも提供している。著作権の問題があるため，セルフスキャンのための著作権料のライセンス契約を行っている。

写真 5：スキャンサービス（地球科学図書室）

“Quick information service” では，支援，進化，研究の 3 本柱のサービスを行っている。その 1 つとしてデータサイエンスの支援を行っており，データセットのプラットフォームが整備されている。

4.2. DOE 図書館

1911 年にバークレー校の研究用中央図書館として開館した。書架と閲覧席からなる従来型図書館であり，教育，研究活動をサポートしている。

写真 6：DOE 図書館外観

写真 7：DOE 図書館閲覧室

4.3. Moffitt 図書館

もともとは学生向けの図書館として設置されたが，図書を DOE 図書館へ移動し，学生の学習場所として全てがラーニング・コモンズ（ガラス張りのグループ学習室，ボックス席，パソコンエリア等）としてリニューアルされた。4 階，5 階の学習スペースは学期期間中は 24 時間利用できる [7]。地下で DOE 図書館に接続しており，図書を利用する場合は DOE を利用することとなる。

写真 8・9：座席にこだわらず、思い思いの場所で学習

7 http://www.lib.berkeley.edu/libraries/moffitt-library,（参照 2019-01-07）.
Web サイトによると 1 階にメーカースペースがあり、3D プリンタ等が設置されているようである。

写真 10：ガラス張りのグループ学習室

利用者用端末は情報担当部署ではなく図書館で整備しており，貸出用の iPad やノート PC もある。

写真 11：利用者用端末

また，5 階には保健管理センターが設置した休憩室があり仮眠できる椅子が設置されている。

写真 12：RestRoom

4.4. 東アジア図書館

米国で議会図書館に次ぐ東アジア蔵書の規模を誇り，日本，中国，韓国等東アジアの図書，雑誌，新聞などが約 100 万点所蔵されている [8]。各国それぞれ専門のスタッフがおり，収集・整理・資金の獲得を行っている。

日本の資料では，第二次世界大戦後の財閥解体で三井家から購入した蔵書群が主たるコレクションとなっており，江戸明治期の版画や地図が多数含まれている。古典籍刊本 5,000 点，写本 2,600 点を所蔵しており，そのうちの 800 点が電子化済みである。また，2,000 点の地図も所蔵している。

中国からの助成により中国国内で作成されたほぼ全ての映画が所蔵されていることも特徴の一つである。

写真 13：東アジア図書館外観

写真 14：東アジア図書館内

8　http://www.lib.berkeley.edu/libraries/east-asian-library,（参照 2019-01-07）

4.5. Bancroft Library

Bancroft Library はバークレー校の特殊コレクションの図書館である。所蔵資料にインキュナブラや中世の公文書等の貴重書，大学アーカイブなどがある[9]。展示用の用具に特徴があり，重みのある紐でページを押さえている（固定されていない）。日本から閲覧しに来た研究者は卦算を持参しているとのことであり，国により使用器具が異なるようである。

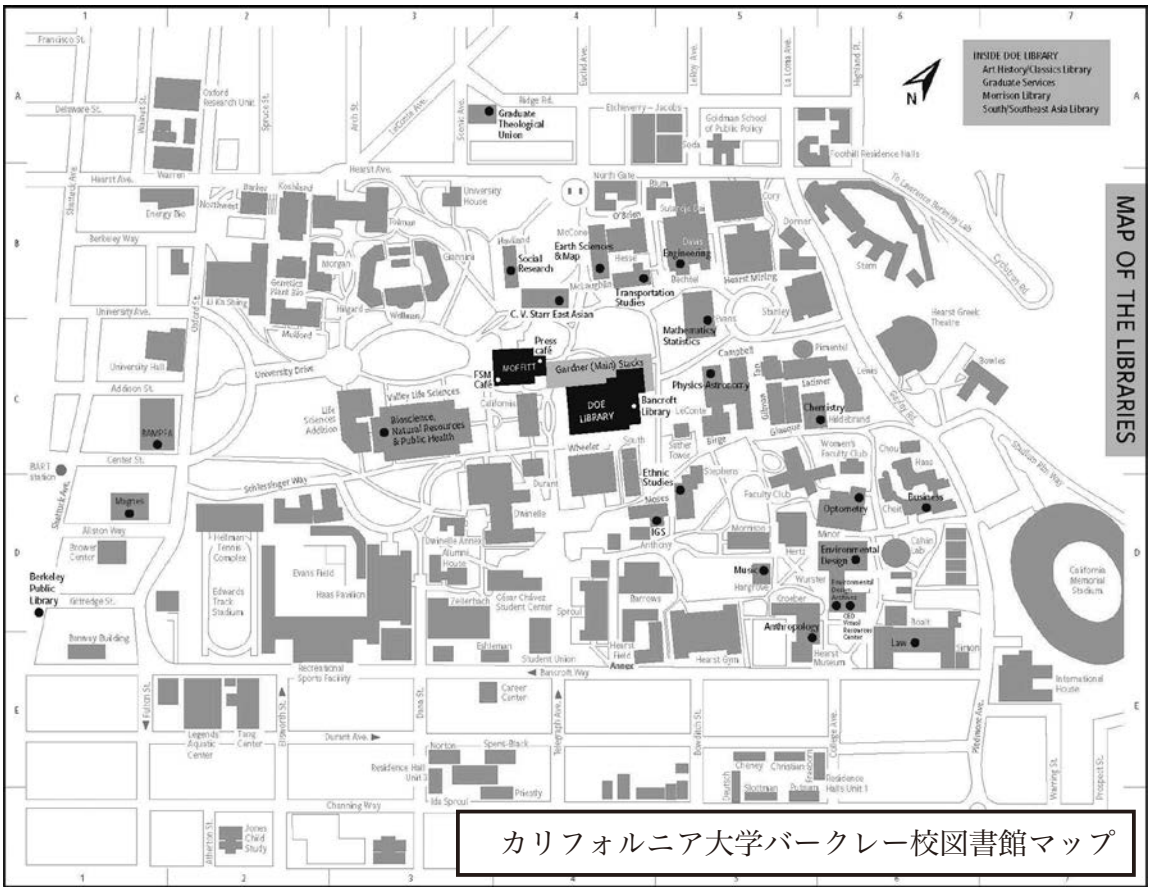
写真 15：展示

また，別室には活版印刷工房があり，数種類の印刷機が置かれている。これらは現在も使用されている。

写真 16：活版印刷工房

4.6. その他の部局図書室

このほか，各研究科に図書室が設置されている（下図）。研究科の事情に合わせ，ラーニング・コモンズを設けているようである。


MAP OF THE LIBRARIES
INSIDE DOE LIBRARY
Art History/Classics Library
Graduate Services
Morrison Library
South/Southeast Asia Library
DOE LIBRARY
Bancroft Library
Graduate Theological Union
Social Research
Earth Sciences & Map
C. V. Starr East Asian
Transportation Studies
Mathematics Statistics
Physics-Astronomy
Chemistry
Ethnic Studies
Optometry
Environmental Design
Anthropology
Law
Music
IGS
Bio-science, Natural Resources & Public Health
Valley Life Sciences
Life Sciences Addition
Press Café
MOFFITT
Gardner (Main) Stacks
FSM Café
Berkeley Public Library
Morrison
Doe Annex
Evans Field
Haas Pavilion
Edwards Track Stadium
Hellman Tennis Complex
Recreational Sports Facility
Student Union
Cesar Chávez Student Center
Sproul
Barrows
Hearst Field Annex
Hearst Gym
Hearst Museum
Bancroft Way
Dwinelle
Wheeler
Sather Tower
Faculty Club
Women's Faculty Club
Haas
Clark Kerr Campus
Residence Halls Unit 1
Residence Halls Unit 2
Norton
Spens-Black
Priestly
Ida Sproul
Cheney
Christian
Slottman
Bowles
Dwinelle
Dwinelle Annex
Alumni House
Zellerbach
Eshleman
Jones Child Study
Legends Aquatic Center
Tang Center
Recreational Sports Facility
Career Center
Channing Way
Dwinelle Ave.
Telegraph Ave.
Bancroft Way
Sather Tower
Campanile
Sproul Plaza
Stadium Rim Way
Hearst Greek Theatre
Stern
Cory
Dormitory
Hearst Mining
Stanley
Campbell
Pimentel
Ladner
Lewis
Tan
Ultman
Gravelyn
Birge
Hildebrand
Wurster
Hertz
Morrison
Hearst Ave.
Bancroft Way
Dwinelle Ave.
Telegraph Ave.
Bowles St.
College Ave.
Piedmont Ave.
Warring St.
Prospect St.
Channing Way
Dana St.
Shattuck Ave.
Oxford St.
Allston Way
Addison St.
Center St.
University Ave.
University Drive
Berkeley Way
Hearst Ave.
Delaware St.
Francisco St.
Ridge Rd.
Euclid Ave.
Arch St.
Scenic Ave.
Spruce St.
Highland Pl.
Cedar St.
Hearst Greek Theatre
Stadium Rim Way
To Lawrence Berkeley Lab
Grizzly Rd.
Footbal Residence Halls
Goldman School of Public Policy
Soda
Etcheverry – Jacobs
North Gate
Rich

5. 今後の PRRLA の活動

PRRLA の総会は，東アジア地域，北米地域，オセアニア地域で交互に開催しており，2019 年の総会は韓国の高麗大学校にて 8 月もしくは 9 月に開催予定である。日本では 2002 年に東京（慶應義塾大学および早稲田大学）で実施して以来開催されていないことから，次々回以降，日本での開催を期待する声も上げられた。ビジネスミーティングにおいて，次回のテーマの希望として，オープンアクセス，コモンパブリッシャー，データマネジメントが挙げられている。

PRRLA は学術研究資料へのアクセス向上のための共同事業の推進を目的としており，加盟館のデジタルコレクションを統合的に検索できるアクセスポイントを設置している。PRRLA の総会以外の事業としてこのデジタルコレクションの整備があり，各館で保有するデジタルコレクションとの連携により登録コレクションを増やすことに重点を置いている。OAI-PMH では記述方法に限界があることから，ResourceSync で同期される。学術情報基盤係において本事業への参画を検討したが，国内では ResourceSync が普及しておらず，外部のクラウドサーバを利用している現状ではシステムの対応が不可能であるため連携を見送った。PRRLA 側でもコンテンツ増加の支援策を講じており，今後の支援状況によっては連携の再検討が要求されるであろう。

6. おわりに

本稿は 12 月 6 日に掲載されたカレントアウェアネス・E2086[10] および館内回覧資料を元に加筆・修正したものである。

本発表は昨年度の総会参画の際に，佐々木智穂氏（閲覧係），吉田芙弓氏（雑誌情報係）と検討したテーマを元に作成した。内容検討にあたっては両氏および永井伸氏（工学分館整理・運用係），学術情報基盤係のみなさまにご協力いただいた。発表資料の作成にあたっては，大隅典子館長，柳原敏昭副館長，加藤晃一部長，小陳左和子総務課長，佐藤初美情報管理課長よりご助言いただいた。また，マリア・クリスティナ・ガルシアメンデス・ミハレス氏（留学生コンシェルジュ）には英文校正をしていただいた。佐々木氏には海外渡航について有益なアドバイスをいただいた。みなさまに篤く御礼申し上げる。

（こばやし　まりえ，附属図書館総務課学術情報基盤係）

10　http://current.ndl.go.jp/e2086,（参照 2019-01-07）